

佳作

「私の小さな赤いくつ」

栃木県 二宮町立久下田小学校 六年 野口 美由紀

八月になって少したったころ、私の家ではお盆をむかえる準備の大そうじをしました。私も一所懸命に手伝いました。その時に、げた箱のはじのほうから、ものすごく小さなくつが出てきたので、「これはだれのくつなの?。」とおばあちゃんに尋ねたら、「このくつは、美由紀が赤ちゃんの時に、初めてはいたくつだよ。」と教えてくれました。そのくつをよく見てみると、ブーツのようにかかとの所が高くなっていて、普通の赤ちゃんのくつとはちがっていました。

私は生まれた時から体が弱くて何度も入院をしたそうです。一歳を過ぎてからも、足首が弱くてなかなか歩けずに、何度もお医者さんに見てもらったそうです。その時に、お医者さんに、アドバイスをしてもらって、お父さんがくつ屋さんに特別に作ってもらった物で、一足で一万円もしたくつだそうです。「この世の中に一個しかないくつなんだよ。」と教えられました。私にそのくつをはかせて、おばあちゃんと真岡のおばさんが毎日おさんぽにつれて行ったそうです。最初は、一人では歩けずにおばあちゃんとおばさんに手を引かれて歩いたそうです。おさんぽに行く時は、元気に歩くのですが、帰りになると、歩きのがいやになって立ち止まってしまったそうです。そういう時には、おばあちゃんとおばさんが交代交代で私をだいて家まで帰って来たそうです。私が一人で歩けたのは二年と一カ月目になった時で、真岡のいとこのお兄ちゃんが来た時に、「おいで、おいで。」をしたら初めて歩いたそうです。最初は七十センチメートルくらいしか歩けなかったそうですが、だんだんたくさん歩けるようになったそうです。おばあちゃんは大よろこびをして、すぐに、お赤飯をたいてくれたそうです。お父さんが、仕事から帰って来てこの話を聞いた時には、大よろこびをしたそうです。それから、毎日おばあちゃんとおさんぽに行って、歩く練習をして、しだいに長く歩けるようになりました。そしていつのまにか元気になってきたそうです。私はおばあちゃんに、この話を聞いた時に、うれしくなって涙が出てきました。そうしたら、おばあちゃんも、「よくこれだけに大きく育ってくれたね。」と涙ぐみながら話してくれました。

私は、このくつを私の一生の宝物として大事にとっておきたいと思います。そして私が将来、結婚して、子供ができた時や、その子に子供ができた時にこの話をしてやろうかなと思います。私はこのくつのおかげで、おばあちゃんやお父さんたちが、私の事を大切にしてくれたことを改めて知りました。私はおばあちゃんやお父さんに、「今まで大切に育てくれてどうもありがとう。」と心の中で、お礼を言いたいと思います。